

令和5年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	会派新政いいだ (文責:小平 彰)	支出伝票No.	
事業名	岩手県紫波町「オガールプロジェクト」の取り組みについて		
事業区分 (該当へ〇)	① 調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

東北本線、紫波中央駅誘致開業に伴い取得した土地が、財政問題で計画凍結に至った。その後「紫波町公民連携基本計画」を議決しプロジェクトが開始された。現在では財政負担もなく進捗している。

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日 時	訪問先・主催者等
	令和5年8月9日 (木) 9時30分～11時45分	オガール紫波株式会社 オガール企画合同会社 取締役 八重島 雄光様

報告内容・実施したこと

1 視察先 (市町村等) の概要
 岩手県紫波町 (しわちょう)
 人口 32,937人 世帯数 12,911世帯 (令和5年9月末日現在)
 面積 238.98km² 1955年(昭和30年)に1町8カ村が合併し誕生した。盛岡都市圏の南部、盛岡市と花巻市の間に位置する。中央部を北上川が流れ、東側には北上高地、西側には奥羽山脈が聳える。国道4号など6本の幹線が町を南北に走り、インターチェンジや3つのJRの駅がある。

オガール紫波株式会社
 創立 平成21年6月1日
 資本金 10,000千円 (平成22年増資) 創立時 3,900千円
 ・紫波町 39%78株 ・株紫波まちづくり企画 24株 ・岩手中央農業組合 20株
 ・株岩手畜産流通センター 20株 ・株岩手テレビ 20株 ・株東北銀行 10株
 ・株北日本銀行 10株 ・盛岡信用金庫 10株 ・他個人

目的
 ・官と民が連携をするためのエージェントの役割を担う事
 ・社業を通じて町の一層の発展と町民の幸せを目指すこと

2 視察内容
 オガールプロジェクトをはじめとした「公民連携によるまちづくり」の取り組みについて
 (1) 取り組みの概要
 紫波町は、JR紫波中央駅の町有地 10.7ha を中心とした都市整備を図るため、町民や民間企業の意見を伺い、平成21年3月に議会の議決を経て紫波町公民連携基本計画をさくていし、この基本計画に基づき、平成21年度から始まった紫波中央駅前都市整備事業が「オガールプロジェクト」となっている。

(2) 取り組みの内容
 オガールプロジェクトの「オガール」とは、成長を意味する紫波の方言「おがる」と駅を意味するフランス語の「Gare(ガール)」の2つの言葉を組み合わせた造語。紫波中央駅前を「紫波の未来と創造する出発駅」とする決意と、このエリアを出発点として紫波が持続的に成長していく願いを込めた。
 新駅設置運動がおこり地元寄付 2.7億円と 10.7ha の土地が確保でき、新駅が平成10年に開業に至ったが、公債費比率の上昇、基金減などの理由から10年間計画が凍結した。平成19年に藤原町長のリーダーシップ及びPPP(官民連携)を担うキーマン岡崎氏の推進により「公民連携によるまちづくり」が始まった。

報告内容・実施したこと	<p>そして平成 21 年に「紫波町公民連携基本計画」が議決された。</p> <p>紫波町公民連携基本計画</p> <p>理念：都市と農村の暮らしを「ゆしみ」、環境や景観に配慮したまちづくりを表現する場にする</p> <p>目的：「町民の資産」である町有地を活用して、財政負担を最小限に抑えながら公共施設整備と民間施設等立地による経済開発の複合開発を行うこと</p> <p>方針：町の特徴を生かし、人に優しい統一感のある景観で住みよいまちにする</p> <p>オガールプロジェクトの手順</p> <p>目的「町民の財産である町有地を安売りしない」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりには手順があり、それを間違っはいけない ・まちづくりは「人」ではなく「不動産」 ・付加価値をつければ価値はそのものを増大させられる <p>逆アプローチの不動産開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志とそろばんの両立。リスクの少ない不動産開発 ・従来方式とは逆算方式での取組 <p>プロジェクト関連組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民 紫波町議会 紫波町 オガール紫波㈱ 紫波グリーンエネルギー㈱ ㈱オガール 紫波シティホール㈱ (公社) 岩手県サッカー協会 オガールプラザ㈱ オガールセンター㈱ <p>施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県フットボールセンター 紫波町から 6000 万円貸付 20 年間で 300 万/年返済 ・オガールプラザ (官民複合施設) 出資 オガール紫波㈱ 2 千万円 紫波町 7 千万円 MINTO 機構 6 千万円 <p>施設内 民間は産直、クリニック 2 軒 カフェ 居酒屋 学習塾 事務所 公共は図書館 地域交流センター 子育て応援センター</p> <p>○家賃賃貸収入 税が生まれ 町は 2797 万円/年収入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーステーション 紫波グリーンエネルギー㈱ 木質チップ温水ボイラーで施設内の冷暖房給湯 ・オガールベース (民間複合施設) ビジネスホテル 日本初のバレーボール専用体育館 テナント (コンビニ 薬局 居酒屋飲食店 事務所) 紫波町スポーツアカデミー ・紫波町役場 ・オガールセンター (民間複合施設) 紫波町子どもセンター 小児科と病児保育室 アウトドアショップ 2 店 グランピング ベーカーリー トレーニングジム 英会話教室 美容院 事務所 ・オガール保育園
感想(まとめ)・市に活かせること等	<p>1 感想</p> <p>駅及び周辺開発に苦慮また計画失敗していたところリーダー的存在の人が、PPP 官民連携を進めた。町民・企業や協会が共に収支計画を立て起業や出資を行い多様な施設が計画され収入もあり紫波町にも家賃や税金が入るようになった。オガールには人が集まり周辺には住居が増え成長した。経済活性化の官民共同で計画出資を行い循環型の場所になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オガールプロジェクトは紫波中央駅開業に合わせて 10.7 ㈬の塩漬け土地の開発を公共連携 PPP の手法を用いて行われた。事業の実施前にテナントを 100%確保し、建物のデザインは統一しているが、個別の事業体で進めている。 ・「まちづくりは人づくり」と思っている私たちに「まちづくりとは、不動産の価値向上である」とは印象的だった。またこの理念を持つ岡崎正信氏と町長の存在がプロジェクトには重要だった。 ・プロジェクトの目標は「消費を目的としない人を 30 万人集めること」。不動産開発を事業の軸にし、地元産や循環をキーワードに緻密な事業スキームを採用している。 ・都市と農村をどのように結び付けていくか、「循環型まちづくり」の考え方は参考になった。

2 飯田市に活かせること等

飯田市には、リニア中央新幹線の長野県駅（仮称）が出来る。駅周辺整備区域 6.5ha と重点協議区域 1.3ha を維持するだけでなく、官民一体となって収益の上がる地域にと思う。

「人はそれぞれの魅力のある所に集まる」、視察で産直の野菜花の集客力（紫波マルシェ）、サッカーやバレーなどの合宿はホテル集客の効果がある。リニア駅周辺でも飯田の新鮮な野菜花果物も産直販売が可能だし、複合施設、ビジネスホテル、事務所および飲食店などが求められると思う。手法としてオガール方式で PPP を活用することは有効と思う。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

- ・会派として調査継続中

PPP (Public Private Partnership) の下には PFI、BTO、BOT、BOO、BLT、Concession などさまざまなアプローチがあり、国はこれらに対し補助金や助成金、融資プログラムなど支援制度があり、市としても活用効果が期待できることから調査を継続する。

- ・会派の令和 6 年度予算案に関する市長提言(令和 5 年 11 月 20 日手交)への参考とした。
- ・これを参考とし、会派山崎昌伸会長が代表質問(第 4 回定例会)を行った。

令和5年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	会派新政いいだ (文責: 下平 恒男)	支出伝票No.	
事業名	岩手県紫波郡矢巾町 住民参加とフューチャー・デザインの取り組み		
事業区分 (該当へ〇)	⑥ 調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1) この事業の目的: どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

矢巾町では、2009年1月から水道サポーターワークショップを開始し3年後には、その参加者から料金改定が提案され積み立てが始まることとなった。この取り組みがフューチャーデザイン手法として海外からも注目され、アメリカやイギリスで論文として取り上げられた。内容を深く調査することで、水道料金改定を進める飯田市に活かすことができないか研究することとした。

(2) 実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日 時	訪問先・主催者等
	令和5年 8月 9日 (水) 14時00分～15時30分	矢巾町役場 政策推進監兼未来政策課長 吉岡 律司 氏 上下水道課長 浅沼 亨 氏
報告内容・実施したこと	1 視察先 (市町村等) の概要 岩手県紫波郡矢巾町 人口 26,458人 世帯数 11,016世帯 (令和5年4月1日現在) 面積 67,32km ² 議員定数 18名 財政規模 (令和5年度当初予算) 一般会計 11,389,000 (千円) 岩手県のほぼ中央部に位置し紫波郡に属する町である。盛岡市南部に隣接するベッドタウンとして開発が進み、過疎化が深刻な岩手県において人口増加が進む自治体である。	
	2 視察内容 「フューチャーデザイン手法による水道料金の検討」について	
	(1) 取り組みの概要 矢巾町では、水道設備の老朽化にともない更新にかかる費用の必要性について、広く住民から意見を聞くために、水道サポーターワークショップを開始し料金改定につなげた。その取り組みがクローズアップ現代で紹介されたことで、大阪大学の原先生から連絡があり、住民参加型のフューチャーデザイン(FD)手法であることを知った。	
	(2) 取り組み内容 ① 取り組みの流れ <ul style="list-style-type: none"> ・2009年1月 水道サポーターワークショップ開始 ・2012年3月 ワークショップ参加者から料金改定の提案 (更新積み立て開始) ・2014年10月 水道事業の取り組みがクローズアップ現代で紹介される ・2015年7月 大阪大学環境イノベーションセンターと共同研究の協定を締結 ・2015年度 水道事業経営戦略策定でFDを実施 ・2016年度 公共施設等総合管理計画策定でFDを実施 ・2019年4月 企画財政課に未来戦略室を設置 ・2019年度 第7次総合計画後期基本計画でFDを実施 ・2023年度 未来戦略課を新設 ・2023年度 都市計画マスタープラン作成でFDを実施 ② フューチャーデザインとは FDとは、将来世代は現在の政策決定に意思を反映できないという問題意識に立ち、現世代が「将来世代の利益のために思考や行動」を発揮できる社会の仕組みをデザインすること。政策形成にあたり、現代に生きる人々 (現代世代) のみならず、将来に生きる人々 (将来世代) をも利害関係者として捉え、現代世代と将来世代の双方の視点を持って考えることで解決方法を見出す点に特徴がある。	

報告内容・実施したこと	<p>③ 「フューチャーデザイン手法による水道料金改定の検討」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水道サポーターを募集（有償・50名）＊水道サポーター組織は以前からある。 ○アウトリーチで住民意識を把握（1000件聞き取り、954件の回答によりニーズの把握。） ○水道サポーターワークショップ（WS）の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者間の信頼確立（フリートーク） ・リスクへの気付き（映像資料視聴→プレスト） ・リスクに関する理解（上下水道課プレゼン） ・解決策の理解（映像資料視聴・プレゼン→プレスト） ・対処行動の実行（映像資料視聴・プレゼン→プレスト） ・WSはボランティアでなく有償（参加者一人、2時間半で5千円）で開催。 ◎参加者の合意形成による料金改定（水道事業経営戦略策定） <p>④ フューチャーデザインワークショップの考え方</p> <p>仮想将来世代の独創的な発想と、現代世代の即効性のありそうな近視眼的な提案を討議することで、合意形成や俯瞰的な視点が生まれる。</p> <p>⑤ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マンガ水道ビジョンを全戸配布したほか、「水道使用量等のお知らせ」に四コマ漫画を載せるなど、普段から水道事業の重要性を広く市民に発信している。 ○大学と共同研究協定を締結し、重層的な住民参加のあり方を研究している。 <p>(3) 現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○料金改定を終えた現在でも水道サポーターを継続し、住民の当事者意識を継続。 ○FD手法を用いたWSなどを水道事業のみならず、住民意識の把握から施策展開に活用している。
感想（まとめ）・市に活かせること等	<p>(1) 良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フューチャーデザインの基本的な考え方（将来世代の視点）を学ぶことができた。 ・市民参加の仕組みのひとつに水道事業ワークショップがあり、有償で行っている。 ・改定ありきではない、水道サポーター立ち上げから合意形成までの取り組み。 ・広報紙に水道関連の記事を載せて現在144回になった。また漫画などを利用している。 <p>(2) 今後飯田市に活かすには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民への広報に、漫画やキャラクターを用いて親しみやすい情報発信にする。 ・住民がオーナーであるという意識付けや、現状を理解してもらうための取り組み。 ・市民参加の仕組み（ワークショップなど）づくりと、その有償化の検討。 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フューチャーデザイン手法を用いた発想自体が素晴らしい。 ・大学との連携や、中心となる吉岡課長さんの存在が大きな影響を及ぼしている。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

- ・会派として調査継続中
- ・会派の令和6年度予算案に関する市長提言(令和5年11月20日手交)への参考とした。
- ・これを参考とし、会派山崎昌伸会長が代表質問(第4回定例会)を行った。

令和5年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	会派新政いいだ (文責:橋爪重人)	支出伝票No.	
事業名	岩手県 盛岡市 ニューヨークタイムズ紙関連事業について		
事業区分 (該当へ〇)	①調査研究費	②研修費	③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費

(1)この事業の目的:どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

盛岡市はポストコロナ時代に起こりうる社会情勢の変化に対応するため、令和3年12月に「盛岡市観光推進計画アクションプラン」を策定し、インバウンド需要の回復に向けた取り組みや通年観光による誘客促進を進めていた中、令和5年1月にニューヨークタイムズ紙で「2023年に行くべき52か所」の2番目に選出された。何の前ぶりも無い中で、どのように取り組まれたのか研修するため。

(2)実施概要

調査・研修の場合の実施	日時	訪問先・主催者等
日時と 訪問先・主催者	令和5年8月10日 午前10時～12時	盛岡市交流推進部観光課 藤谷 徹 課長・及川 僚太 主任

報告内容・実施したこと	1 視察先の概要 <ul style="list-style-type: none"> 盛岡市は県庁所在地及び県最大の都市。人口283,800人132,800世帯(令和5年7月)で、中核市、保健所政令市、中枢中核都市に指定されている。 地理的には岩手県は北海道に次ぐ2番目の面積県があり、盛岡市は県の内陸部、北上山地のほぼ中央部に位置し、市内中心部に主流北上川に雫石川、中津川が合流する。 中心市街地からは奥羽山脈に属する早池峰山(東)のほか、独立峰の姫神山(北)、南昌山・東根山(南)などを望み、これらは市域の内外にありながら街のランドマークとなっている。 市域面積は東京23区の約1.4倍886.47平方kmあり、豊かな自然に恵まれ、美しい景観を形成している。 歴史的背景は、戦国時代に南部氏と斬波氏との二大勢力の覇権争いを制した南部家26代信直により盛岡藩が誕生した。藩二代目の利直の時代に城下町として進展し、町割りには二重の外堀を巡らせ、上方や江戸から迎え入れた商人や職人が町を囲み、その外側に三戸から移ってきた武士の屋敷や寺院を配置した。新しい時代の軍事、商業、交通に対応した循環市街地が形成された。江戸時代の商家や明治から昭和初期の銀行が現在まで姿を残し、喫茶店も数多くある。 特産品、土産品には冷麺や南部せんべい、地酒、南部鉄器などが有名。
	2 視察内容 <ul style="list-style-type: none"> ●概要・背景は <p>盛岡市は令和5年1月にニューヨークタイムズ紙で「2023年に行くべき52か所」の2番目に選出された。観光は(年間510万人、3次産業が80～90%)元々、市の主要産業であり、令和3年12月に「盛岡市観光推進計画ポストコロナ時代を見据えたアクションプラン」を策定し、令和4年度には総事業費1億2000万円弱にて事業実施していた中、更に事業を進展させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 東北6市連携の枠組みによる各種プロモーション活動(特に祭り関係) 盛岡さんさ踊りの実施(4日間で113万人参加) 首都圏観光プロモーション事業 MICE誘致PR動画作成 もりおかイルミネーションブライートの開催 デジタル観光マップの作製(経費約2,000万) 盛岡CityWiFiの環境整備(経費約4,300万、年費用300万) <p>盛岡市が選出されたことは突然の事であったが、これを好機と捉え、盛岡の良さを再発見し広くPRするとともに、これまで以上に、国内外に魅力的な観光地として積極的なプロモーション活動と受け入れ態勢の整備を行っている。</p> <p>○米ニューヨークタイムズ紙 特別版 「52PLACES TO GO」 2023.1.15日曜版</p> <p>翻訳</p> <p>この10月まで、日本はどの主要国よりも厳しい渡航制限を維持していました。現在、旅行者は東京、京都、大阪などの人気の目的地に戻ってきています。しかし、岩手県の盛岡市は、これまでしばしば見過ごされるか、完全に無視されてきました。</p>

山々に囲まれ、日本の高速鉄道である新幹線で東京から北へ数時間のところに位置しています。盛岡の中心地は歩きやすい。街には、東洋と西洋の建築美学が融合した大正時代の建物、モダンなホテル、いくつかの古い旅館(伝統的に宿)、そして曲がりくねった川があります。魅力の一つは、公園になっている古代の城址です。

この街には日本のサードウェーブの創業者の1つであるナガサワコーヒーを含む素晴らしいコーヒーもあります。オーナーであるナガサワ カズヒロは、彼が個人的に輸入して復元したヴィンテージのドイツ製プロパットロースターを使用するほど、豆にこだわっています。

東屋では食べ放題のわんこそばを提供しています。ブックナードは古典的な日本のアートブックを提供しています。40年以上営業しているジャズ喫茶の「開運橋のジョニー」などもあります。車で西へ1時間ほどで、田沢湖と数々の世界クラスの温泉にも行き着きます。

著 クレイグ・モッド

●盛岡市の対応

①令和5年3月補正予算 2000万円計上

ア受け入れ態勢の整備

- ・盛岡駅北口に臨時観光案内所設置
- ・デジタル観光マップの内容充実と多言語による周知チラシ制作
- ・外国語版ガイドマップの制作・更新
- ・おもてなし研修会開催

イ誘客宣伝の展開

- ・様々な媒体を利用した効果的にPR活動実施 (JR 東日本新幹線車内紙掲載)
- ・全国の自治体の市長・議長・教育長への盛岡市紹介文書、パンフレット送付
- ・西日本地区旅行会社へのプロモーション活動、10月大阪開催の「ツーリズムエキスポ」への参画

②令和5年4月補正予算 4000万円計上

ア受け入れ態勢の整備

- ・祭り行事を体験・体感できる場の創出
次世代への継承も兼ねた定期的な「さんさ踊り」の鑑賞
山車運行期間中に山車に触れていただく
- ・もりおかプレミアムまちあるき事業の実施
県と連携して普段体験できないコンテンツの提供(コーヒードリップ体験・着物で街歩き体験等)
- ・おもてなしのために駅東口にハンギングバスケット等の追加設置

イ誘客宣伝の展開

- ・様々な媒体を利用した効果的にPR活動実施
東海道新幹線車内紙への掲載・JAL 国内線機内誌への掲載など
- ・重点ターゲット地域・国(東南アジア地域・アメリカ合衆国)の設定と戦略的プロモーション展開 8月ニューヨーク 9月タイ・バンコクにて魅力発信を計画

③県と連携した取り組み 県事業費 6500万円

ア観光再始動事業 9月～10月実施

盛岡市ではプレミアムまちあるき事業

県はビストロわんこ、わんこそば世界大会実施

イ県の観光魅力発信イベント 2月23日開催済み

東京にある「いわて銀河ぷらざ」でわんこそばのデモンストレーション等

ウ盛岡駅におけるGW 歓迎おもてなし 4月30日開催済み

来盛した観光客にさんさ踊りの鑑賞やノベルティの配布

エ訪日外国人をターゲットにWEB バナー広告、首都圏在住者への広告等共同展開

1 感想

- ア ニューヨーク・タイムズ紙「行くべき52箇所」掲載後の盛岡市の対応について
- ・盛岡市にとって観光は重要産業であり、ポストコロナの観光振興計画として以前から取り組んできたからこそ事業を加速的進行させることができた。
 - ・掲載されてからのレスポンスの高さは、執行機関、議会双方に目を見張るものがあった。(3月、4月に2回の補正予算)
 - ・ニューヨーク・タイムズ紙で選ばれたとは言え「目玉となる観光資源はない。」との認識は変えることなく、突飛な取組はしないようにしている。これまで大切にしてきた「歴史」「文化」「風土」「人」を改めて重視したプランを練っている。
- イ 掲載後の盛岡市の対応策について
- ・インバウンドなど来客に対して、東北6市(青森市、秋田市、盛岡市、山形市、仙台市、福島市)連携による各種プロモーション活動。その過程で特に夏場の青森、秋田、岩手、宮城の4大祭りの日をずらしたことは印象的だった。
 - ・年に1度のさんさ踊りではなく、観光客が定期的に観覧できるようにした「街なかさんさ」の事業は地元の踊り文化の継承にも繋がっている。
- ウ 掲載されたこと、クレイグ・モドさんの評価に対する感想
- ・ニューヨーク・タイムズ紙に載ったのはまったくの偶然と言っても良いかと思うが、そもそも盛岡市にそれだけの魅力があったということだと思う。
 - ・旅行者に与える満足感が観光拠点とともに市民の日常生活の豊さが重要となっていくという示唆であると思う。
 - ・“旅の印象は人の印象”はこれからも大切にしていきたい。
 - ・盛岡市の観光戦略は県との連携もしっかりできている。

2 市に活かせること等

- ・「デジタル観光マップ」は、当市においてもまちなか観光・焼き肉店舗食べ歩きなど観光ツールとしては大いに利用できるものと思われ、検討を進めるべき。またその為にWi-Fi環境の充実も欠かせない盛岡City Wi-Fiは32カ所、防災の面でも使えるものとなっていた予算4000万(看板1000万、Wi-Fi3000万)。
- ・盛岡市は、別名「歩いて楽しめる秘境、隠れた宝石のような街」と言われていて、歩いて楽しめることを大切にしている。盛岡観光マップに掲載されている「盛岡でしたい10のこと」は、「1. まちなかで深呼吸」「2. 城下町としての盛岡を歩く」「3. 盛岡三大麺を味わう」「4. レトロ建築の世界をめぐる」「5. 盛岡ゆかりの先人に出会う」「6. 喫茶店でこだわりの一杯を」「7. 手仕事のぬくもりに触れる」「8. 市で暮らしを覗く」「9. 盛岡の情趣を祭りで感じる」「10. 良質な水が育んだ酒を嗜む」となっていて、少し内容を変えれば飯田市でも似たようなものは作れるのではないか。また当市ではリング並木や動物園、美博、春草などを生かした丘の上の回遊コースを確立することが重要ではないか。盛岡市と同様に「歴史」「文化」「風土」「人」に焦点をあてた観光資源の醸成が飯田市にとっても必要と考える。
- ・東北6市連携による各種プロモーション活動は大きな力となると感じる。今後の当市にも大切な視点、連携であり、リニア中央新幹線長野県駅においても県内のみならず、近隣あるいは中間駅自治体とも、もっと連携を強められるといいと思う。
- ・農家民泊の先進地でもある飯田市においては、より日本、日本人らしさを求める外国人旅行者の受入には勝機がある。飯田市とAirbnb社との連携がどうなっているか議会として進捗状況を確認しておく必要がある。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

- ・会派として調査継続中
- ・会派の令和6年度予算案に関する市長提言(令和5年11月20日手交)への参考とした。
- ・これを参考とし、会派山崎昌伸会長が代表質問(第4回定例会)を行った。

